

波方支所 おでかけ市長室 質問・回答要旨

開催日・場所 令和4年9月27日(火) 19:00~21:00 波方公民館 2階大ホール

No	項目	意見要旨	回答要旨（今後の対応を含む）
1	地域審議会に代わる市への要望システムの構築について	従来の地域審議会のように、合併前の旧越智郡は町村単位、旧市内は校区単位等に要望機能を持たせ、要望事項をできるだけ尊重して市政に反映していくシステムの構築はできないのか。	<p>○陸地部に地域振興局を設置し、地域振興の緊急対策費として市道や農道の維持修繕のため予算計上をしている。陸地部全体を俯瞰する目で、優先順位をつけ重点的かつ緊急的な予算措置が必要である。</p> <p>○やらなければならないことはすぐやり、時間がかかることは中期的、長期的に。できないものは、理由を支所長を通じて皆さんに報告する。</p> <p>○「おでかけ市長室」や「おでかけ波方支所長室」を開催している。要望や意見交換をする場として活用いただきたい。また、支所を「小さな拠点」として気軽に訪れふれあいの場にもしていただきたい。地域の方々の声を聞き取るべく、地域振興課及び各支所の職員が積極的に地域に足を運び、地域と行政との円滑なコミュニケーションを図ってまいりたい。</p>
2	庭木や生垣の管理について	高齢者の世帯の庭木や生け垣など、今は、植木屋さんやシルバー人材センターに手入れを依頼している。自分が施設に入ったり、死亡したとき、人や車の通行の支障となった場合、市でなにか方策はないのか。	<p>○「なみっこ交流館」に有償ボランティア『おた助さん』のシステムがあり、草刈り、ごみ出しなどの生活支援サービスの利用ができる。また地域の包括支援センターでは、民生委員、介護サービス事業者（料金要）、地域ケア会議などが利用できる。空き家の相談は、地域振興課空き家対策の係を活用してほしい。</p> <p>○高齢化で、ごみ出しできない、高い木の伐採ができないなど、様々な問題が出てくる中、全ての地域の声を聴かせてもらい、どう対応するのか市全体で考えていくことが必要。</p> <p>○樹木・草等が交通の支障や倒木の危険がある場合は、本来は、土地所有者が管理するものであるが、地元にはいない方や高齢で管理できないものが相当数ある。市としては、所有者を探し管理をお願いしているが、所有者にて管理ができない場合等は、各案件で事情も異なることから、相談で対応させていただきたい。</p>
3	老人クラブの存続について	波方町は、老人クラブが11団体あったが、現在は、4団体。会員の増加の努力をするが、少しでも老人クラブへの交付金の増額を願う。	<p>○H29年度の決算状況と比較するとR3年度決算は、収入支出とも減少している。収入減の原因は単位クラブ数や会員数の減少によることが関係し、支出減の原因は活動の減少が関係している。</p> <p>○コロナ前は、老人クラブは年間を通じて多くの事業に積極的に参加され、地域活動も皆さんの参加を大きな力として頼りにしていた。しかしこの2年間の活動自粛が団体の活動意欲をそいでいった側面は否定できない。</p> <p>○老人クラブの交付金（補助金）については、市民の皆さんの活動が活性化できるような制度のあり方について、一緒に考えさせていただきたい。</p>

4	波方支所おでかけ市長室について	<p>こういった会議に何度も出席しているが、先ほどのような市が持ち帰った案件について、文書で分かりやすく回答していただき、この会が有意義なものとなるようお願いしたい。期間を決めていただくとありがたい。</p>	<p>○要望を聞いて、そのままにしたことはなく必ず早くお返す。できない場合もできない理由をしっかりと説明させていただきたい。同じような声が、他の地域でも出ているのかもしれない、そういう思いでお聞きしているので、ご安心してほしい。</p>
5	高齢者や子どもの安全・安心について	<p>通学路の歩道に草が生い茂っており少子化のため親やPTAの会員も少なく、刈り取り作業ができない。 ボランティアの方が、いつもきれいにしてくれている所もあるが、手が行き届かない所も多々ある。行政なら地権者も分かると思うので、何とかならないものか。 よその地域でこんな事案があるなども教えてほしい。</p>	<p>○通学路の安全については、しっかりと声を上げてきてほしいと思う。山の木が通学路にかかっている等があればその土地の所有者に対応をお願いするので、連絡いただきたい。 ○所有者が分かるところについては早々に対応するよう最善の努力をする。ただ、波方出身であっても東京や大阪に住んでいて、なかなか連絡が取れなくて日数がかかる事案もある。 ○歩道の草については夏休みが終わる前に草刈の依頼が多くあり対応している。未対応な箇所があれば連絡してほしい。 ○波方のように地元の方々が協力していただける事は非常にありがたい。 ○様々な箇所がある。地域振興局で一番要望されている箇所を決めさせていただきたい。こうすれば上手くいくという情報を横展開する必要があると認識している。</p>
6	波方公園のスポーツ施設について	<p>波方公園の野球場をよく利用しているが、野球場、体育館、多目的広場、武道館と順次整備され、現在、50年近くが経過し、施設の老朽化が気になっている。今後、これらの施設の大規模な修繕等について、どのように考えているのか教えていただけないか。</p>	<p>○公共施設の修繕は、優先順位がある。公の施設評価を含め、指定避難所や地域におけるスポーツ施設の役割を考慮し、順位付けしている。 ○来年度に公の施設評価の見直しがあり、その後、スポーツ施設整備計画の見直しを行う。 ○安全・安心に施設利用いただくことが大前提のため危険な箇所については、早急に対応する。その他多数の施設については、スポーツを「する・見る・支える」視線に立ち、指定管理者とも協議し、優先順位を考慮しながら進める。 ○質問から外れるが、公園の遊具を直してほしい、魅力的にしてほしいという要望も多く上がっている。今年度、市全体の遊具長寿命化計画を作成、国からの予算で、優先度の高いものから順次修繕を実施予定。どこの公園を中核とし、どのように魅力的な公園を作っていくかを指示している。波方公園がどうなるか、情報共有していく。財政面も照らし合わせ、安全・快適に利用できる効果的で計画的な施設の修繕・補修に努める。</p>
7	生涯スポーツについて	<p>波方町は、「生涯スポーツの町」をスローガンに掲げている。コロナ禍でスポーツすることが少なく、高齢化で体力の低下も進んでいる。 ニュースポーツを取り入れたいが、道具必要なことから、市に要望したら購入できるのか。</p>	<p>○FC今治が現在スタジアムを建設中で、市は後押しとして、企業版ふるさと納税を受け付けている。1億円のご寄付をいただいた場合9000万円は目的どおりスタジアムの建設に、1000万円は今治市の生涯スポーツに使う予定なので、競技団体の要望の中で、対応できるものは対応する。 ○波方地域は、旧波方町時代からニュースポーツ、軽スポーツに積極的な取り組みをしており、生涯スポーツにおいては、市内の先進地だと思っている。今後、どのようなスポーツを広めていくか、スポーツ推進委員さんと協議し、今治市全市で積極的に活動できる方策をとっていただきたい。その中で、必要道具の要望があれば、購入することは可能だと考える。</p>

8	<b>波方公民館の改修について</b>	この2年間は文化活動ができていない現状。公民館が、建設から30年を経て傷み、備品等も老朽化。そういった所に予算を付け、改修してほしい。	○予算の範囲内で、危険性、施設を活用する上で緊急性の観点から優先順位を付け、改修させていただく。 支所からも、例えば、公民館大ホールの設備であるとか、早く修繕しないといけない箇所の優先順位を付けて要望してもらっている状況である。今後も優先順位に沿って順次改修を行っていく。
9	<b>文化協会の活動について</b>	文化協会活動の補助金として、30万円ほど貰っているが、2年間活動していなかったものを動かしていく中で、各部門への協力費など上げていただけるのか。	○何かの冠事業をするのであれば、クラウドファンディングで資金調達して実施可能。 ○現在、波方文化協会に対して316千円の補助金交付を行っている。通常の活動で、恒常的な増額となると負担の累増につながるため厳しく、増額は困難と思われる。ご意見の通り、本格的な事業がR4年度から再開されると思われるが、R2・R3年度にも規模を縮小して行った作品展示等事業に対し、補助金交付させていただいた。原則、他文化協会についても同様の考え方になると思われるため、ご理解いただきたい。
10	<b>公園のトイレについて</b>	大角海浜公園のトイレが狭く汚くて、快適でない。特に利用者が多い夏場は汚いと市外から来る方から話があった。利用者の多い大角海浜公園のトイレからでいいので、快適化と改修を願う。	○大角海浜公園のトイレは、今月末から着手中。運動施設については、大半が指定管理者制度で管理を外部に委託していて、小規模な改修については、委託先で対応。市長就任当初、波方の婦人会の方々から、市役所の1階のトイレが洋式ではないと真っ先に指摘を受け改修した経緯がある。 ○トイレの改修は、しっかりと計画的に対応する。 ○大角海浜公園のトイレについては、現在改修工事に着手している。波方地域だけでなく今治市全体として、公園のトイレは洋式化を含め、優先度の高いものから計画的に修繕・改修の対応を行う。
11	<b>多機能トイレについて</b>	配偶者が身体障がい者となり、多機能トイレが少ないと感じている。最近、トイレやバリアフリーなど少しずつ改善されている。自分が健常者だと気づけなかったが、身体の不自由な方を気かけ、声かけするような気運を醸成していき、障がい者にやさしい施設やトイレの整備を見直してほしい。	○障がいのある方にやさしい町づくりは、小さな子どもに対してもやさしい町づくりに繋がる。だれにでも優しい町づくりを進めていくため、全て自分事なんだと考えて少しずつでもやっていきたい。 ○市内公共施設や学校現場は、長寿化や老朽化対策が必要。オストメイト対応や車イス対応している施設は少ないと感じている。技術的な問題もあるが、しっかりと取り組んでいきたい。 ○現在、本庁・支所庁舎を対象にトイレの実態調査を行い、老朽化の著しいトイレの修繕及び便器の洋式化など快適性の向上を図り計画的に進めている。今後は、庁舎の改修等も考慮しながら、多機能トイレの整備についても配慮し、誰もが使いやすいトイレの整備に向けて取り組んでいきたい。 ○波方公民館には既に多機能トイレが整備されているが、より利用者にとってやさしい設備となるよう、今後も検討を重ねていく。 ○公園のトイレに関しては障がい者の方を含め、来園者が快適に利用できるような優先度の高いものから計画的に修繕・改修の対応を行う。
12	<b>市民の声が届く市政について</b>	越智商工会は、波方、大西、菊間の3地区が合併してできた。今治市は、1市9町2村が合併してできたが、従前より意思の疎通が図りにくいと思われる。そういった面を視野に入れた上で、市政の運営をお願いしたい。	○合併後の18年間、市民にとって良くなる施策をとってきたが、一体感の醸成ができていない。令和5年度から仕込み、令和6年度に合併20周年の大きな花を咲かせたい。地域の声なき声の汲み上げが不十分かもしれないが、支所長にも地域振興局にも、地域の人々と議論し、一つの答えを出し、自分の気概を持ってことを成すよう常に言っている。職員が、自ら考え、自ら行動し、自ら責任を取っていく、皆さんの声に応えていきたい。

13	<b>高齢者の利便性について</b>	地元地域の商店の廃業、隣町の波止浜地区に大型店舗の進出、越智今治農業協同組合の波方支店と小部支店の廃止、高齢化率の上がる中、高齢者利便性をどのように図っていくのか。	<p>○移動販売は、A コープやフジが週に2回ずつ回っている。コープえひめは市内であれば、どこでも配送が可能。今のサービスの中で何が足りないのか、どのようなサービスが必要なのかといったご意見を寄せていただけたら、各事業者に繋いでいき、不安・不便の解消に取組みたい。</p> <p>○ネットスーパーも発展してきており、高齢者でも対応していけるよう、支所を中心にリテラシー（知識や能力を活用する力）の向上を図っていきたいと考えている。</p> <p>○また、他県の事例では、地元有志で構成されたNPO法人による商店の開設などの事例もあるので、今後、研究していきたい。</p>
14	<b>高度海事人材確保支援事業について</b>	どういう人材を確保していくのか教えていただきたい。また、その取り組みを説明してほしい。	<p>○今般の事業は、新型コロナウイルス感染症の影響による事業縮小や撤退に伴う他産業への貴重な海事人材の流出を防ぎ、回復基調にある海事産業界で不足している高度人材（管理者級）を確保することを目的としている。</p> <p>○具体的には海事に関する業務に5年以上従事した経験等を有する者であって、海運業については、海技者（海技免状を有する職員以上）、船舶管理や船員の配乗管理を行う陸上技術者を想定している。</p> <p>○市の基幹産業である海事産業を支援するため、海事人材の確保・育成に資する施策に今後も取り組んでまいきたい。</p> <p>○海運、造船、船用関連の高いスキル持つ人には今治市に来てほしい。船員の確保、内航海運についても、こうすれば良いといった意見があれば知らせてほしい。</p>
15	<b>観光について</b>	地域資源としての鈍川温泉郷とみなとマルシェでの活性化は、将来が見えてくる取り組みだと思う。目玉となる観光資源がないのではと危惧している。修学旅行者の誘致は、食と宿泊と観光について、大いに期待している。	<p>○しまなみ海道・サイクリングはキラーコンテンツである。この世界に誇れる観光資源に加え、その他にも魅力的な観光コンテンツは存在していると考えている。それらの発掘、磨き上げについて積極的に進んでいきたい。</p> <p>○F C 今治のスタジアムも観光資源となりうる。地域資源は点在しているため愛媛県とともに点から線、線から面へと繋いでいく作業が必要。そのために二次交通が大事となるが、デマンドバスなど検討している。</p> <p>○鈍川温泉の再整備やせとうちみなとマルシェの開催、修学旅行の誘致についても単なる誘客目的だけではなく、それを通じて既存の観光資源の磨き上げを行うことにより、中長期的に観光地として発展し続けられるような将来を見据えた事業であると考えている。</p> <p>○観光地としての発展は地域の方のご理解がなければ、到底達成することができないものなので、ぜひ様々な方面で協力いただきたい。</p>

16	<p><b>なみっこ交流館について</b></p>	<p>8年前、波方町には児童館が3館あり、2館が廃止となったが、各方面に働きかけたり、署名活動をした結果、民間で管理運営することで存続できた。</p> <p>市の子育て支援拠点施設として予算化していただき、常時職員2名を配置してもらっている。40人/日の利用があり、市内はもちろん松山市からの利用者もある。</p> <p>人が大事で、毎月、1回運営の会議をしている。3年前から高齢者への「おた助さん」の有償の支援サービス、草刈りなど環境保全のサービスを実施中。なみっこ交流館は、地元の野菜や日常生活品、お菓子など販売。地域の住民が、地域を支える成功事例だと考える。</p>	<p>○地域の生活を支えるのは、地域の住民である。なみっこ交流館の活動は、様々な担い手の方々が、波方の地域課題を自助、共助、公助と役割を考えて、お互い協力され、地域コミュニティの拠点として素晴らしい活動と思う。</p> <p>○地域の小さな拠点としての機能を備えており、地域振興のモデルケースとなる活動。今後も、子どもからお年寄りまでがふれあう地域の元気の源として、様々なご意見をいただきたい。</p> <p>○伯方島には、「鎮守の杜」という活動があり、なみっこ交流館のような活動をしている。旧市内では、シルバー人材センターの事業だが、「にこにこ広場大きくなれ」といった事業がある。子育てに悩むお母さん方を、少しだけボランティアで、経験を生かそうと行っている。</p> <p>○なみっこ交流館の「おた助さん」のように多岐にわたりサービス内容が広がっている成功事例として様々な地域で広報し、成功事例として、地域の中に落とし込み、育てていきたいと思う。</p>
17	<p><b>波方地域活性化推進協議会の活動について</b></p>	<p>波方地域には、味噌づくりの伝統があり、「親子味噌づくり教室」をとおして、文化の継承、コミュニケーション、地域の輪を広げている。昨年、愛媛朝日テレビのふるさとCM大賞に応募し、「審査員特別賞」を受賞した。</p> <p>地域資源の中では、大角海浜公園の環境整備に一番力を入れている。一昨年は、河津桜の苗木を10本、昨年は20本植えた。展望台からは、パノラマの風景を楽しむことができる。また、四季の花を楽しむことができ、2月末から3月にかけて河津桜、続きソメイヨシノ、夏にはサルスベリ、秋には、野路菊、ツワブキが美しく、冬は水仙が咲く。これだけの公園に管理人が一人しかいない。手が行き届かない部分については、なみっこ交流館の環境保全隊に作業委託はできないものか。支援をいただきたい。</p>	<p>○波方地域の美化及び活性化に努めていただき、感謝申し上げるとともに、地域自立活性化補助金については、支所担当及び地域振興課担当職員から、アイデア出しや事務的な面において、できる限りのご支援をさせていただくので、ぜひ有効活用していただき、地域の賑わいに繋げていただきたい。</p> <p>○大角海浜公園はトイレの改修や環境整備などを行い保全に努めている。手が行き届いていない部分については、波方支所と協議を行い、地元の方との連携など、よりよい環境保全の在り方を検討していく。</p>
18	<p><b>波方小学校の教職員の定数について</b></p>	<p>子どもたちのことや子育て世代の私たちのためにいろいろと考えてくれ、すごく感謝している。小学校の教育の中でもデジタル化に取り込むなど力を入れてくれていることもよく分かる。子どもたちの個性を大事にしながら教えていただいている。ただ、30代、40代の教職員が少ないのではないかと、市役所職員もやはり同様に少ないと感じている。増やすことはできないだろうか。</p>	<p>○公立学校の教職員の数は国の法律で定められ、愛媛県教育委員会が、公立学校に配置すべき定数を決めている。今治市には、定数を下回っている状況の学校はない。</p> <p>○波方小学校は、今年度1学級減となり、教員数も1減となるところが、大きな研究会の対象校となっていることで、現状維持となった。</p> <p>○教職員の配置数については、引き続き少しでも多く配置できるよう県教育委員会に対し、要望を続けていきたい。</p> <p>○特別な配慮を要する児童が多くなり、個別の支援が必要な状況も各校とも増えている。今後も、各校の個別の支援が必要な児童生徒の実態に応じ、教員をサポートする職員（不登校支援員やICT支援員、嘱託職員、学習アシスタント、学校生活支援員など）の配置を考え、学校生活に不安感を抱える児童を支えることができるようにしていく。</p>

19	<p><b>教育・子育てへの危機感について</b></p>	<p>部活動の指導に関して、教職員ではなく、地域のスポーツ指導者へ委託していく流れになっているようだが、指導者不足と限られたスポーツ指導者しかいない点についてどのように考えているのか。</p> <p>私学へ進学する子どもが増えてきた。高い教育環境がある大都市へ流出している。学校教育を補佐、受験対策などの塾が、市内で不足している。大手の予備校や塾だと高い教育を受けれるが、富裕層ではないと行かせることができない現状。サポート制度はないのか。</p>	<p>○部活動の地域移行については、愛媛県の方針を踏まえ、他市町と情報共有しながら、今治市の子どもたちにとってより良い方法を各競技団体と一緒に考えていく。</p> <p>○今治市の児童生徒の学力調査の結果を真摯に受け止めている。児童クラブは、子どもを預かる場所であるが、教育委員会と連携して学びの補習ができないか検討中。教員の負担軽減と子どもたちの学力向上、デジタルをうまく併せて今治版のメソッドを、教育委員会で確立し、教育現場に落とし込みたい。</p> <p>○オンライン学習サービスについては、学校でも、家庭でも個別最適な学習ができるよう、新しいオンライン学習サービスの導入を検討している。今年度3校の2年生をモデルとした実証研究を踏まえ、来年度は、現行の全中学校に導入予定になっている。</p>
----	-------------------------------	--	--